



じょうほう 織部

大東高校PTA会報

平成26年度

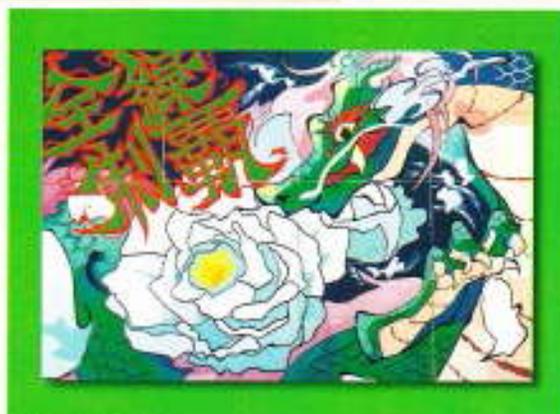
第1号

10月1日発行
PTA広報委員会

第67回 織部祭

晴天万笑

～輝けMy Color～



『勝田の森の奥深く』

PTA会長 狩野 明芳

今年の高校野球選手権島根大会は大東高校初となる準決勝へ進出し、当日は猛暑のなか全校応援や地域の方々からの多くの声援を受け、優勝した開星高校と12対11の激闘を展開しました。甲子園では、その開星高校が全国優勝した大阪桐蔭高校と激戦の末に1点差で敗れました。大東高校と大阪桐蔭高校の点差を単純に考えると2点なので、あと3点取れる力があれば全国優勝も夢ではないと思えた夏の大会でした。

甲子園で、勝利チームがバックネット前に整列し誇らしく校歌を歌う場面は感動的です。島根大会でも同じように校歌を歌いますので今年は3回聴くことができました。

最後の大会を終えた3年生の野球部員の慰労会があり、保護者の一人として参加しました。3年生の部員19名は、9つの中学校から集まったメンバーです。慰労会の中で、あるお母さんの発案で、出身校の中学校あるいは小学校の校歌の歌詞が配られ、歌詞を見てどこの校歌か当てていき正解がでると出身

校の部員が歌うというもので、保護者も飛び入りでいっしょに歌う姿に、校歌に対する愛着と誇りが感じられました。そして終わりに全員で大東高校の校歌を歌いました。

卒業生会誌「八雲」第49号（平成24年9月発行）の中に校歌誕生の特集が組まれていて、それによると終戦後の昭和25年頃に当時本校の先生であった藪波先生（作詞）と高見先生（作曲）によるもので、1番と2番には身近な地名が織り込まれ、3番4番には壮大なロマンが盛り込まれ、奥の深いものであると記されていて、私も本校の卒業生なので、校歌を聞くたびに高校時代を懐かしく感じ、またその歌詞とメロディーに愛着を感じている一人として興味深く読みました。

近い将来、甲子園で大東高校の校歌が流れることを楽しみにしています。

最後になりますが、PTA活動へのご理解とご協力をお願い申し上げますと共に、折りにふれ高校に足を運んでいただけたらと思います。

地区PTAについて

校長 奥井 彰

保護者の皆様には、平素より本校のPTA活動に物心ともにご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。特に本会報にも掲載されています各種委員会活動では、委員長さんを中心に計画から実践まで精力的に取り組んでいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

そのPTA活動の一環として、今年も7月15日～25日にかけて10地区を会場に地区PTAを開催致しました。各地区の支部長さんには色々とお世話をいただき有難うございました。内容は、学校からの説明など全体会が終わった後に学年別の懇談会に移るといった例年とおりのものですが、その中で今年は「地区PTAの在り方」についてご協議いただきました。予想どおり議論百出で、実施肯定派においても従来どおりとするご意見と形を変えての実施というご意見、またどちらも言えないという中間派、

更には否定派もありました。

地区PTAの意義は大きく2点あると思っています。学校側の意義としては、教員が地域に出かけ保護者の方の声を聴くことによって、その地域特有の実情が把握できること。そして保護者側の意義としては、同一地域の保護者同士がいろいろと情報交換することによって、学年を越えたつながりができること。

どちらも子どもたちを支援していく上で重要な意義だと思っておりますが、今年の実績では、参加者が5割を超えた地区は3地区しかなく、開催意義が薄らいでいるように感じております。果たして地区PTAは必要なのか？必要ならば、どういう形で実施するのが有効なのか？今後、皆様方に色々のご意見をいただきながら検討して参りたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

総務委員会活動報告

総務委員長 多根 俊之

平成26年総務委員会の活動として織部祭（8月28日）での模擬店を行いました。

例年通りのカレーの他色々考えましたが、当日朝からの作業ですのでやはりカレーと決まりました。昨年の総務委員長の本常様が400食用意して余ったから今年は300食がいいとアド



バイスを受け、300食用意することとなりました。今年は雨の日が多く天気心配されましたが、当日は曇り晴れでちょうどいい天候で販売時間と同時に沢山の子どもたちが長い行列を作り、総務委員全員が笑顔でとても活気があり感動さえました。今回は例年のカレー以外にジュースも用意しました、350mlが50円と言う安さで用意した300本全て売れました。

この度平日にもかかわらず朝からカレー作りに協力していただいた先生、総務委員の皆様にはびっくりするほどきびきとカレーを作ってください大変感謝しています。この活動で子どもたちの笑顔が見られてとても有意義な一日でした。でも疲れました。

～大嶋啓介さん講演会～

研修委員長 錦織 真澄

「あなたの誕生日は、お母さんに産んでくれてありがとうと感謝する日ですよ。」

研修委員会では、例年講師をお招きして講演会を行っております。今回は9月27日、大嶋啓介さんにお越しいただきました。大嶋さんは飲食業界で最も注目を集めている居酒屋「てっぺん」の創業者で、独自に行っている「本気の朝礼」がテレビや雑誌で数多く取り上げられ、大きな話題になった方です。

講演会では、店内の様子を撮ったビデオを見せていただき、とても出来るとは言えないスタッフが「本気の朝礼」で一年後には店長に抜擢されてデキるスタッフになり、朝礼の凄さを感じました。

自分のやる気を一度に上げる方法として行った「本

気のじゃんけん」は、勝っても負けても本気で喜ぶという変わったじゃんけん、生徒、先生、保護者の皆さんが笑顔になり、会場の空気が一度に明るくなりました。大嶋さんの体験も含め、親への感謝を伝えることの大切さは、ビデオを見ながら会場全体からすすり泣く声が聞こえてきました。

驚きあり笑いあり涙ありの濃い時間でしたが、講演を通して出たキーワードは「思い込み」で自分の制限を解除して脳に眠っている3万倍の可能性を信じてほしいと会場にメッセージを残してくださいました。

今回の研修会では、多くの方々にご協力いただきました。ありがとうございました。

活動報告

育成委員長 西 嘉直

大東高校PTAの皆様には、口ごろから育成委員会の活動にご理解ご協力をいただき、感謝申し上げます。

育成委員会は、学校外での生活指導や健全育成、交通安全、挨拶運動などの推進を任務としています。今年度は7月7日に、約20名の育成委員の皆様にお集まりいただき、第1回育成委員会を開催しました。委員会では、先生から生徒の学校での生活状況を、保護者から地区内での状況をお聞きし、有意義な情報交換ができました。

学校での生活状況については、部活動の加入率が高いこと、中国大会にはソフトボール、陸上、剣道、空手が出場したこと、自転車のマナーアップモデル校に指定され、自転車の事故、盗難ともに「0」であることなどをお話いただき、子どもたちがマナーよく、学校生活に積極的に取り組んでいる様子うかがえました。一方、携帯電話等の所持率が100%に近く、LINEなどメッセージアプリを含む平均使用時間が1日当たり1～1.5時間に及んでおり、勉強時間確保等の観点から家庭でのルール作りを努めてほしい旨お話がありました。

SNSは手軽で便利なものであり、わたしたちの生活を豊かなものにしてくれます。一方で、使い方を誤ると、極端な場合は犯罪の被害者や加害者になったり、そこまでいかなくとも、いじめの温床になったりする危険性があります。SNSに発信された情報は、転々

流通して取り消しができなくなり、また、文字として残るため、その影響は友人同士の会話とは比較にならないほど大きいのです。

わたしたちは保護者として、スマホや携帯電話の使い方に関心を持ち、適切な使い方について、子どもたちと時々話し合ってみるべきではないかと思えます。また、勉強時間を確保するため、1日の使用時間を、最長1時間以内、できれば30分以内にするなど、家庭でルールを作っても良いと思えます。もしも、「うちの子だけそんなことをしたら友だちがいなくなる。」などご心配がありましたら、PTAでルールを作るなど、学校全体で取り組むことも考えたいと思えます。皆様のご意見をお聞かせください。

各地区の委員の皆様からは、「子どもたちがよく挨拶をしてくれる」との意見が多くあり、大変うれしく思いました。また、例年行っている各地区の夏祭りパトロールの計画を立てました。7月20日は木次町のえびす祭り、7月23日は加茂町の二十三夜祭、7月27日は穴道町のれんげ祭り、8月6日は大東町の七夕祭りのパトロールを行い、いずれも問題はありませんでした。

今年度も残り半分となりました。子どもたちが、楽しく有意義な学校生活を送れるような活動を引き続き行っていきたいと思えます。ご意見ご要望がありましたら育成委員会までお寄せください。

日々勉強

広報委員長 本常 明子

昨年度に引き続き副会長を務めさせていただくことになり、今年度は広報委員長をすることになりました。残念ながら、7月に予定しておりました第1回広報委員会の開催ができず、委員の皆様には申し訳なく思っております。「じょうほう織部」を通し、生徒の皆さん、保護者の皆様へ、何か心に留まるような「じょうほう」を届けることができたら、と思えます。

娘も高校生活最後の年になり、卒業し、いずれは社会に出ていくわけですが、私自身、社会人として20年以上経った今、果たして会社から、あるいはそれ以外で関わる様々な人たちからどう評価されているか、最近特に思えます。そんなことをいちいち考えていたら辛

りがないのですが、「人として恥ずかしくない行動」を頭におくようにしています。ある本に「時間厳守は最高のマナー」とありました。約束の時間より前に着くことは相手を大切にしていることを言葉に出さなくても表現している、と。時間を守る人ほど信頼され、成功している、ともありました。挨拶も人と関わるスタートになる大切なものです。大東高校の皆さんは挨拶が素晴らしいですね。挨拶もできない大人もいます。こちらの気分も悪くなり、不信感さえ生みます。子どもたちの悪い手本にならぬようにしたいものです。

PTA活動を通し、いろいろな方との出合いを大切にし、私も日々勉強していきたいと思えます。

部活動 ~保護者の想い~

美術部

保護者 竹内由美子

バレーに励んだ中学時代から一転、送わず美術部に入部しました。各地での講演会や高校美術展への出店…。娘が苦心して描いた絵を県立美術館で展覧したのは胸が躍りました。気の合う仲間と楽しい3年間でした。支えてくださった皆様、どうも有難うございました。



吹奏楽部

保護者 渡部純子

3年生にとって最後となる夏のコンクールが台風のために2日間順延されました。この2日間をチャンスと捉えて集中力を切らすことなく練習に励み、本番のステージではしっかりと大東サウンドを響かせてくれました。部活動を通して、演奏中の緊張感あふれる真剣な眼差しや、仲間たちに囲まれ笑顔の我が子を見ることができ、親としても幸せな3年間でした。



最後になりましたが、先生や講師の方のご指導に感謝いたします。また、地域や保護者の皆様、吹奏楽部のみんな、本当にありがとうございました。

自然科学部

保護者 板持 勉

今年度は独自の活動はなく、例年並みの活動内容でしたが、3年になり模試等で研修会には参加できませんでした。少人数で和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく部活動ができたことは、大変良かったと思います。後輩にきちんと引き継いで、自然科学部での経験を生かして今後の生活に役立てて欲しいと思います。



茶道部

保護者 松浦 慎

千利休が説いた茶道の心得に四規七則があります。人をもてなすための精神が詰まっております。誰でもできる当たり前のことが説かれていますが、それ故にかえって難しいのだそうです。

皆さんには、茶道を通じて他人を思いやる心を育み、当たり前のことがきちんとできる人間に成長してもらいたいと思います。これから少しずつ自分を磨きながら、充実した人生を歩んでいってください。



写真部

保護者 丹波 祐司

3年間、楽しくいろんな写真を撮り、また何回か作品展もさせてもらいました。校内校外にも見に出掛けさせてもらいました。また、3年生となり部長をやらせてもらうことになり、子どもにとっては本当に貴重な経験になったと思います。

この3年間の部活動を通じて、いろんな面での成長を見ることができました。先生方、保護者の皆様、部員の仲間たち、支えてくださった皆様に感謝申し上げます。



生活科学部

保護者 井田 和孝

3年生引退後、2年生がいなかった1年生5人でマイペースに活動。その後、後輩の入部で11人の生活科学部になりました。食べ物の好きがある中でのメニュー決め、限られた予算での買い出しは、いつも悩みの種。でも、皆でわいわいがやがや作って食べた後はいつも大満足。普段は週一の部活動だけど、給食前や学園祭前はお菓子作りで連日皆で奮闘。料理を通していろんな経験ができました。3年間お疲れ様。先生、後輩の皆さん、たくさん応援してくださってありがとうございました。



JRC部

保護者 山崎 英夫

広島土砂災害発生にともない、多くのボランティアが活動している報道を目にする。被災者の助けにできればと思う人がこんな写にもたくさんいらっしゃることに感動します。ボランティアのおかげで復旧したら、今度はお返しボランティアに出掛けようになりたいものです。

人口減少の中山間地では隣近所力を合わせ、現状を維持して行かなくてはなりません。これは、お返し願うてはできないことなのです。親世代の課題です。



囲碁・将棋部

保護者 和久利清治

残念ながら「大東のイナズマ」の噂を耳にすることはできませんでしたが、いつぞやラメールで一般の方々に「指導」していただいていたのを見ました。実力の程は、…。でも、楽しくやっているのを見て安心しました。囲碁・将棋のみならず、いくつかの文化部を掛け持ちしていたようで、結構忙しい生活を送っていたようですが、早くも引退の時期が来ました。色々やった経験、この先の人生に活かして欲しいと思います。



男子バレーボール部

保護者 西村 信恵

試合があると必ず応援に行き、子ども車の中で反省会。そんな3年間を過ごさせてもらいました。「敵は我にあり、全員全部全力カバー・進化力」この言葉を胸に挑んだ最後の総体。夢を追いかけ諦めずコートの中を必死にボールを追う姿、いつも見慣れていた子どもが輝いて本当にバレーが好きなんだなぁと胸が熱くなったのを今でも思い出します。惜しくもベスト8で終わってしまったけど最高の仲間たち、団結力の強い保護者、厳しく鍛えてくださった先生方が居たから大東高校バレーボール部がここにあるのだと思います。沢山の方々に支えていただいたことに感謝して次の道に進んでほしいです。そして最後に…ありがとう。



女子バレーボール部

保護者 石原 哲也

小中高とバレーに打ち込み様々な経験をしました。3年生10人は高校に入ってからチームメイト。新しい環境で慣れないことも多い中、全力でプレーしてきました。「ベスト8」を守ることで、皆で大泣きしている姿を見て思わず涙したことが忘れられません。そして最後の昇格体。今度こそ！！と全員一丸となって挑みましたが、あと一歩で敗退。悔しい思いをしました。ですが、かけがえのない仲間とバレーができた喜びを心に刻み、これからの糧にしたいと思います。多くの人々に支えていただき感謝しています。本当にありがとうございました。最後に…楽しい思い出をありがとう。



男子ソフトテニス部

保護者 明珍さよ子

入部当初は3年生14名と1年生6名という中でのスタートでした。初心者ということもあり、3年生が引退された後は特に大変だったと思います。ですが、共に頑張っている仲間や指導していただく先生のお陰もあり徐々に日々の練習にも熱が入っていったと思います。

目標は私の感じるころでは、まずは公式戦での勝利だと思います。私ができることは、可能な限り試合会場に出向く応援することぐらいですが、自分たちも「勝ちたい」という強い思いを胸に悔いの残らぬようさらに心身を鍛え、日々練習に励んでほしいと思っています。

女子ソフトテニス部

保護者 小池 健一

初心者ばかりで、1年の時から先輩のいないチームで、最初はまとまりがなかったけれど、他校と比べると少ない人数なりに、練習内容を考え、沢山の指導者の元で練習させていただいて、プレーヤーとして、人として、大きな成長を見ることができました。3年間、お疲れ様でした。自分たちの思いは後輩に託して、次は進路に向けて頑張ってください。



野球部

保護者 細木 雄二

『紫命』～大東の地から感動を～をスローガンに自分たちが歴史を変えようという強い思いをもってスタートしました。秋季大会3位、センバツ21世紀枠候補にも選ばれ、春季大会は2位となりました。そして最後の夏、初の準決勝進出、結果は敗れたものの個々のやるべき使命を果たしきることができました。この3年間やってきたことは今後人生の糧となり、ともに闘った仲間は一生涯の宝となることでしょう。



最後に、これまで支えていただいた多くの皆様方に感謝申し上げます。

バドミントン部

保護者 野津 圭子

毎日ハードな練習に何度となく心が折れ、どうなることかと思っておりましたが、先輩たちに支えられ今度は後輩たちを引っ張っていくことで色々なことを経験し3年間続けることができました。



部活を通して学んだことは、とても大きかったと思います。ご指導いただいた先生方、コーチはもちろん、保護者の皆様方に感謝申し上げます。今後のバドミントン部の更なる躍進を願っています。



空手道部 (男子)

保護者 穴道 基

やせ型でひよる長い手足の我が子が、空手道部に入部すると聞いた時には家族みんながビックリでしたが、指導者の方々・先輩・後輩・仲間と助けられながら3年間やり通したことは本当に良かったです。空手道に出会ったことで、「心・技・体」すべてで成長してくれたと思います。今後の人生にも「空手道」で学んだ経験を活かして、人間的にも大きく成長して欲しいものです。また0日の方々のように、後輩たちとの絆をつないでいき、できることなら空手を続けてくれればと思います。



最後に、指導者・先生・部員・保護者の皆様方に心より感謝申し上げますと共に、今後の空手道部の更なる躍進を願っております。

空手道部 (女子)

保護者 高橋 澄人

空手道部に入りたいと聞いた時は正直、驚きました。指導者、先輩たちの指導についていくことが精一杯だった1年生。先輩たちからバトンタッチを受け、自分たちが先鋒に立った2年生。自分たちの持てる力を全て出し切ろうと必死に努力した3年生。「空手道」を通して学んだ道義の心。心が折れそうになったとき、支えてくれた仲間の大切さ。今後の人生に活かされるのではないかと思います。



今まで熱心にご指導いただいた監督、コーチ、先生、0日の皆様、大変お世話になりました。今後の空手道部の躍進を期待しております。

陸上部

保護者 石原 研

我が子も早いもので3年生。1年生から陸上部に入り、思い起こせば入部してすぐに怪我に見舞われ思うようにタイムが出せず苦悩の日々や、初回の部員勧誘では思うように入部者を集められず、今後の陸上部の危機を感じさせるなど失態の数々…。そんな息子も後輩思いなのか、今年度は自身の最後の大会の練習を割いてでも1年生部員の勧誘に走り回り頑張ったお蔭で8人の新入部員が入ってくれて本当に良かった。



今は進学に向け勉強に励みつつも、自分自身今年最後となるであろう県内のマラソン大会も高校駅伝出場(完走)を目指し頑張っているようですが、練習から大会後まで怪我の無いよう頑張れ！そして、陸上部3年生の皆様お疲れ様でした。最後に今後の大東高校陸上部の活躍を期待しております。

剣道部 (男子)

保護者 野々村 高美

昨年の秋から男子部員1名でしたが、今年度に入部生4名が入部し、団体戦にも出場することができました。



県総体では初勝利も挙げ、日々の積み重ねの成果がでたと思います。剣道の応用は拍手のみで、数分で決まる勝負は張りつめた糸の静けさ。その一瞬が魅力でした。剣道部のポロシャツの背中には、「ここその一本 勝気 強気 根気」が描かれ代々受け継がれています。これからもその精神と感謝の気持ちを大切にし、自分を突き出していきましょう。

剣道部 (女子)

保護者 持田 由美

3歳から始めた剣道が続けてきて、今は剣道部のキャプテンとして頑張っている姿に強さを感じます。男子後輩部員が入部し、選手では女子一人ですが、学ぶことがたくさんあると思います。先輩として、教える喜び、持田キャプテン率いる、皆で今までのない剣道部を作ってみるのも良いかも。



卓球部

保護者 西村 純

最初は、こじんまりとスタートをきった卓球部でした。徐々に仲間が増え気付けば2ケタに！にぎやかな部活動を送ることができたようです。試合で勝ち進むということはできませんでしたが、この仲間と共に過ごした日々は何にも勝るものだと思います。



これも先生、コーチ、保護者の皆様の温かい励まし、ご指導があったからこそだと思います。本当にありがとうございました。今後も卓球部の活躍を願っています。

ソフトボール部

保護者 渡部 茂昭

新チームになって、3年生3名・2年生7名・1年生6名県総体に向け個々に目標を掲げながら、またインターハイ出場という目標に向かって厳しい練習・県外遠征で、体力・精神力を鍛えました。県総体では1回戦で敗れてしまいましたが、最後まで諦めず3年生3名の3年間がつまんだその姿と皆のプレーぶりにこみ上げるものがありました。来年はインターハイ出場できることを願っています。



ご指導いただきました先生方、コーチ、保護者の皆様、地域の皆様、お世話になりました。今後のソフトボール部の躍進を願っています。

バスケットボール部

保護者 佐藤 晴美

6月に総体が終わりましたが、1年生4名、2年生5名、マネージャー3名、3年生1名の計13名で活動してきました。ここ近年、部員確保が必死ですが子どもたちは毎日まじめに練習してきました。時々外部コーチの方にも指導していただけるようになり、指導力面で配慮もいただきありがとうございました。3年生の我が子は試合には一度も勝つことはありませんでしたが、部活動で得た物は多くあり宝となったことでしょうか。皆とても仲が良く笑顔の多いバスケット部でした。



先生、コーチ、保護者の方には大変お世話になりました。今後のご活躍を楽しみにしています。

サッカー同好会

保護者 内田 太

今年、初めてインターハイ予選に出場し、0-3で初戦敗退しましたが、強豪校相手に必死でボールを追いかけゴールを死守しようとする姿、力を出し切りやり遂げたという表情がとても印象に残っています。これまでのことを思い出し、本当に良い仲間に出会えたと思います。またご指導くださった川上先生、五木先生には大変お世話になりました。後輩の皆さん、部への昇格を自覚してこれからの練習を頑張ってください。応援しています。





織部祭総集編

